



ネズミの侵入、許していませんか？

すっかり暑くなり、ネズミをはじめとした生き物の活動が活発になりました。皆さまの工場では、ネズミの姿やフン、物音など、気になる兆候はございませんか。

ネズミは見かける機会が少なくても、工場内へ侵入し食品混入・衛生問題・設備トラブルや火災リスクなど、企業運営に大きな影響を及ぼします。特に見落とされがちなのが侵入口の大きさです。クマネズミだと500円玉ほど、ハツカネズミであれば1円玉や10円玉ほどの穴があれば侵入可能です。また、クマネズミは壁や配管を伝って垂直に登ることもでき、「高い場所だから安心」とも言えません。配管の貫通部・換気口・屋根材の隙間・シャッター下端・排水溝など、まさかと思う場所が侵入口になります。被害を防ぐには

「早期発見」と「的確な対策」が重要です。痕跡（フン・足跡・擦れ跡など）から行動範囲や侵入経路を把握し、原因を見極めることが必要です。

対策後も油断は禁物です。ネズミの歯は硬く、コーキング剤やパンチングメタルまでも齧り破られることも。防鼠パテや金属メッシュとの併用が効果的です。対策が機能しているか、定期的なチェックが欠かせません。

弊社では、侵入口の封鎖・捕獲資材の設置・環境に合わせた防除を組み合わせてサポートいたします。ネズミでお困りの際は、お気軽にお問い合わせください。

配管やパイプ、吊りボルトにはネズミの通過を防止する取り付け型のネズミ返しも有効



写真：齧り穴をパテで埋めた例
コーキング剤を齧って穴を作り出入りしていたが、防鼠パテで閉塞後、齧られてはいない



←写真：齧られて断線一步手前のLANケーブル

今月の

おすすめ



ピグ®水のう

特徴：吸水で膨らむ水のう型簡易型ダム。20Lの水でおよそ5分で膨らみ、3段まで重ねて使用できます。吸水前は軽量コンパクトで大雨、台風等の水害対策用の常備におすすめ。

今月の

豆知識

タオルの話

汗をよくかく季節となり、タオルが欠かせない時期になりました。今では暮らしの必需品ですが、日本に伝わったのは明治時代初期（1870年代）といわれており、日本ではパイル（ループ状のもの）を持つものをタオルと呼んでいます。

タオルは体についた汗や水分をぬぐうので、できるだけ肌触りの良いふわふわなものを使いたいものですが、家庭ではわざわざわしがちではないでしょうか。改善のコツは、干す前に“5～10回バサバサ振る”こと。ループが立ち、空気を含んでやわらかく仕上がります。また、真ん中が少し下がるように干す「M字干し」で風の通り

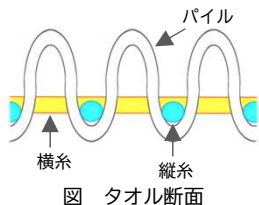


図 タオル断面

を良くしたり、扇風機等で風を当てて、ループを倒さないように乾かすのも良いです。干し方だけでなく、洗濯の仕方ポイントです。洗濯時は詰め込みすぎず水量をやや多めにするると繊維がつぶれにくくなります。柔軟剤を使えば良いと思われていますが、実は使いすぎると吸水力低下や傷みの原因になるため、2～3回に1回が適量です。洗剤も使いすぎると洗剤カスが残ったり、ニオイや黒ずみの原因になるため、メーカーが示す適量を使うのが重要です。

ひと手間を加えるだけで、毎日使うタオルの快適さはぐっと変わります。ぜひ実践してみてください。

